

メーカー/ブランド名	車名	メーカー/ブランド名	車名
ヤマハ YAMAHA	YA-1	ヤマハ YAMAHA	DS6-C
<p>ヤマハ発動機の製品第一号。黒一色で重厚なデザインが常識だった当時栗茶色のスリムな車体から”赤トンボ”の愛称で呼ばれた。また、第3回富士登山レース(1955年)や第一回浅間火山レース(1955年)で上位を独占し、走行性能の高さも実証。大卒初任給が平均1万円ほどの時代に13万8千円という価格にもかかわらず、3年間で約11,000台が世に送り出された。</p>		<p>5ポート方式、オートループ(分離給油)機構、ツインキャブレターを採用した250ccのスポーツモデル「DS6」をベースに、精悍なアップマフラーやエンジンガードを採用したスクランブラー。この年ヤマハ発動機は「スポーツ」「トレール」「スクランブラー」とカテゴリー充実を図ったが、“スクランブラー”を代表する一台が「DS6-C」だった。</p>	
			
メーカー/ブランド名	車名	メーカー/ブランド名	車名
ヤマハ YAMAHA	RZ250	ヤマハ YAMAHA	YZF-R1
<p>ストロークエンジンの魅力を凝縮したピュアスポーツ。リッター当たり140馬力の高出力エンジン、ヤマハ発動機独自のモノクロスサスペンション、軽量キャストホイール等による圧倒的な性能とロードレーサーTZ250を思わせる精悍なスタイリングが多くのファンを魅了した。4ストロークに移行しつつあった市場のトレンドを一変させ、後の“レーサーレプリカ”ブームの先駆けとなった。</p>		<p>ワインディングロードにおける「最高のエキサイトメント」を追求したコンセプトでスポーツモデルの世界を変革したモデル。強力かつ扱いやすいトルクとパワーを発揮する軽量・コンパクトな4気筒エンジン、理想的な車体構成を実現したデルタボックスIIフレームなど、画期的な特徴を数多く備え、スーパースポーツのカテゴリーに新時代をもたらした。</p>	
			